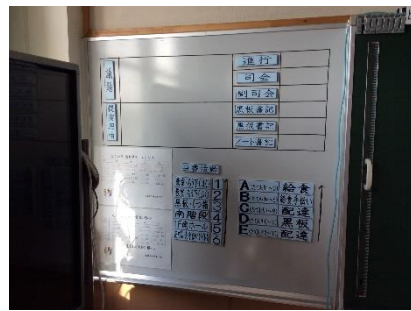


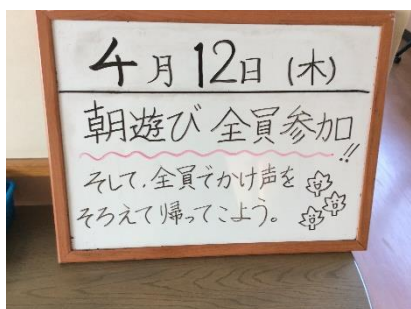
附属小の教育活動を支える潜在的カリキュラム

今年の水曜日の朝に「(定例の) 打合せ」が復活しました。その結果、職員室のドアに多数貼られていた連絡用の紙が全てなくなりました。子どもたちが教室にいる時間の「打合せ」です。リスクはありますが、子どもたちがいるからこそ効率的に会を進め、子どもたちの生活に関する確認事項をすぐに指導できるメリットもあります。特に今年は多くの先生方の異動があったので、これまでいた我々は分かっているようなことでもお互いが顔を見ながら全員で確認する時間を大事にしたいと思っています。

さて、朝に教室や昇降口を回っていると、先生方が生活指導を丁寧に行ってくださっていることがよく分かります。写真は左から5年1組の雑巾がけ、真ん中は2年2組の靴箱（大久保先生が靴の正しい置き方を子どもたちに指導しているメッセージ付き）そして、写真右は5年4組の教室の前面です。それぞれ担任の先生が今の時期に何が大切かを考えて指導をしてくださっていることが分かります。そしてこういったところに附属小の教育活動を支える「潜在的なカリキュラム」があることが分かります。



生活指導と同様に今の時期に大切なのが学級づくり。言い換えれば子どもとの信頼関係をつくることです。昨日の打合せで教頭先生が「先生方も子どもたちと一緒に朝外に出ましょう」と呼びかけたところ、今朝の各学年の廊下の黒板には子どもたちに外へ出る内容のメッセージが目立ちました。廊下の黒板で子どもたちにメッセージを伝えるのは副主任の大事な仕事。学年をリードする副主任の先生方も「朝の遊び」の時間の大切さが伝わっているからこそです。



どんぐり山では初めて遊具を使う2年生が担任の先生と一緒に遊んでいる姿が見られました。これまで1年生校庭を主な遊び場にしていた子どもたちにとっては、「校庭デビュー」になります。どんぐり山の使い方、遊具の遊び方、竹馬や一輪車の使い方や片付け方、最初に担任の先生と確認しておけば後は楽しく安全に過ごせます。また1年生の校庭では、早速1年生が6年生が見守る中、体育着に着替えて1年生校庭で遊んでいました。

(さあ平成30年度がスタートした!) そんな気持ちにさせられた朝の1コマでした。

(文責: 副校長 手代木)